

生涯學習情報誌

Life Learning

10

2022

Oct.

NO.386

AJCクリエイターズコンテスト2022

財団後援事業

東京都美術館
主催・AJCクリエイターズコンテスト実行委員会



表彰式後には上位入賞作品を囲んでの交流会が行われた。

AJCクリエイターズコンテスト2022



プレゼンター



財団が後援し、協賛会員の(株)オールアバウトライフワークスが実行委員会を運営する「AJCクリエイターズコンテスト2022」の表彰式が、7月1日、東京都美術館の講堂にて開催された。コロナショックが和らいだ今年はエントリーが約30点増え、明るいイメージの作品も目立った。生涯学習開発財団賞は6作品に授与。表彰式後、上位入賞作品を囲んで、作品の背景や技術について熱心に交流が行われた。高橋良子審査員は講評で、男性や海外からの出品者が増えたこと、コンセプトがしっかりした作品が増えたことを評価した。展示は終了しているが、展示映像をYouTubeで公開中（詳細はAJC公式HPより）。

〈大賞〉内閣総理大臣賞



watanuki氏
刺しゅう部門
「森の中」(写真は部分)



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



Flower Flow氏
アートジュエリー部門
「ディープバイオレット
(調和と循環の世界)」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



梅村里美氏
アートジュエリー部門
「ゆきどけ
～奥入瀬より～」



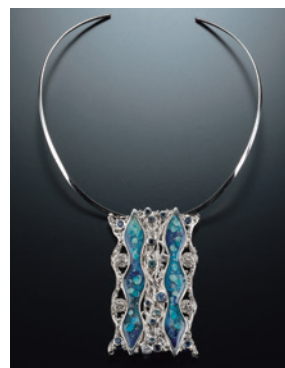
〈金賞〉文部科学大臣賞



岩崎智子氏
人形部門
「童話のうち～ちい
さなガラスのお話～」



〈金賞〉厚生労働大臣奨励賞



佐藤直美氏
アートジュエリー部門
「Spring!」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



haru.氏 (U-25)
ペイント アート部門
「夢の つづき」
表彰式欠席

〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



工藤すみ子氏
バッグ部門
「未来への希望」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



亀井ひとみ氏
フラワーアート部門
「Botanical
(accessory world)」



〈銀賞〉生涯学習開発財団賞



浅見聡子氏
ファブリックアート部門
「越後線 春の情景」
(写真は部分)



多元的共生社会における
生涯学習を考える 第29回

2022
9/3 Sat.

体験しながら学ぶ！
オンラインでも“つながる”ワークショップ・デザイン



2022年9月3日 オンライン開催

■講師

新井 英夫

(体奏家・ダンスアーティスト)

1966年埼玉県生まれ。自然をお手本に余計な力を抜く「野口体操」を創始者野口三千三氏より学び深い影響を受ける。投げ銭方式の駅前ひろば野外劇など、つながりをマチに創出するユニークな劇団活動主宰を経て、のち独学でダンスへ。国内外での舞台活動との両輪として、障がいの有無を越えて乳幼児から高齢者まで幅広い方を対象にした身体表現&コミュニケーションのワークショップ「はぐす・つながる・つくる」を教育・福祉・社会包摂等に関わる場で展開中。 青山学院大学社会情報学部プロジェクト教授、国立音楽大学はか非常勤講師。

●共催：一般社団法人ワークショップデザイナー開発機構／青山学院大学 社会情報学部附属社会情報学研究センター

●協力：青山学院大学 社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラム事務局



約70名がオンラインで参加した（写真は一部）。

で紹介してくださったもの。

「ふだん絶対自分ひとりでは恥ずかしくてやらないだろうというようなことも、受け入れてくれる相手、場があることで行うことができます。お互いが引き出しあい、盛り上げる意識がカギになります」と、場作りの大切さを訴えた。

本シンポジウムのテーマは「多元的共生社会における生涯学習を考える」。多様性や多文化共生というものは、言葉で訴えるだけでなく、つながっている感覚、一緒に体を動かすことによって得られる体感が大切だと感じさせられた。そして、こうした一体感や場を、どのように生涯学習に活かしていくか、実践者の課題であろう。

■振り返りから

・オンラインの会議や講座形式のワークショップの経験は多いが、こういう体験は初めて。大人のワークショップであっても、遊び感覚をうまく取り入れたい。
・最初から慣れない人に合わせる場だと思えばイライラしないですむ。

・新井さんのワークには何回か出ているが、

体を動かすワークは記憶に残るし、何より楽しい。コロナ以前を思い出し、そうだったなと再認識すると同時に、オンラインでここまでできることに驚かされた。

会議や講義だけでなく、ワークショップにおいてもオンラインは手段のひとつになりつつあるが、画面越しの参加者同士のコミュニケーションという難しさがある。講

師の新井英夫氏は「体奏家」を名乗り、身体と感覚を使った学びを追求し続けている。ちよつとした工夫で相手を感じ、場の共有を可能にする「オンラインでもつながる」ワークショップデザイン」を約70名の参加者と体感した。

■通信環境の悪い人に合わせる

「ワークショップはいろいろな切り口がありますが、身体性Ⅱ体を使うこと、即興性Ⅱその場で起こること、共同性Ⅱそこにいる人達が誰一人としてかけがえのない存在として物事を共有すること、一緒に何かを作ること。今日はそのようなキーワードのアクティビティを皆さんに体験していたらどうだと思います」

自己紹介の後、さっそく簡単なゲームが始まった。

- ・5秒以内に消えるかくれんぼゲーム
- ・朝ごはんを食べた人のみ画面上に残る
- ・じゃんけん勝ち抜きゲーム
- ・一瞬で画面を真っ赤にする方法

これらはワークで用いる画面操作の準備運動であると同時に、参加者の慣れ・不慣れを確認する意味もある。オンラインでは通信環境の悪い人に合わせるのが鉄則という。高齢者ワークショップでビデオ接続できない人がいたため、急遽その日は声だけでつながるワークという切り口にして、それなりに楽しく盛り上がったようだ。

■お互いに場作りをする意識が大事

新井氏が紹介したワークは、おもに不登校の子供たちや知的障害の子どもたちとのワークショップ、高齢者とのワークショップで行った、体を使うワークをアレンジし

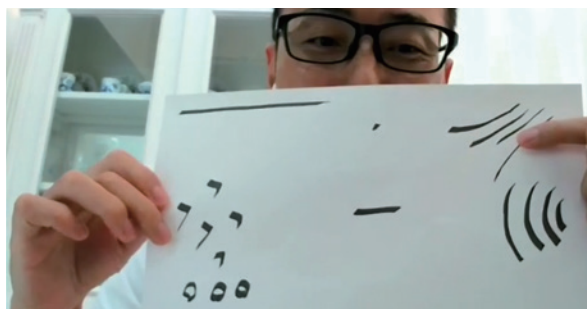


ワーク中の空気づくりやワーク転換の合図などに、おもちゃの楽器を効果的に活用していた。



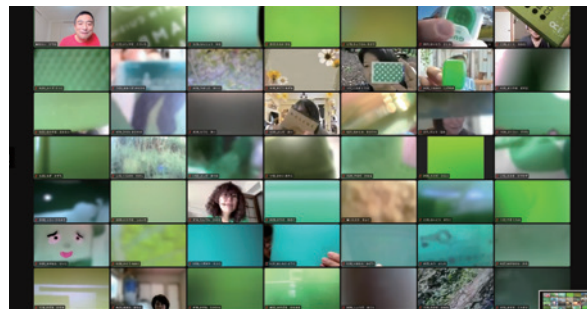
何やってるんですか？即興表現ワーク

④即興で何かを表現する ⑤何やってるんですか？ ⑥卓球やってます ⑦卓球を表現する ⑧何やってるんですか？ ⑨料理してます ⑩料理を表現する ⑪何をやってるんですか？と繰り返す。写真は自由なおもちゃを表現するワーク。周りの盛り上げ（場作り）が重要。



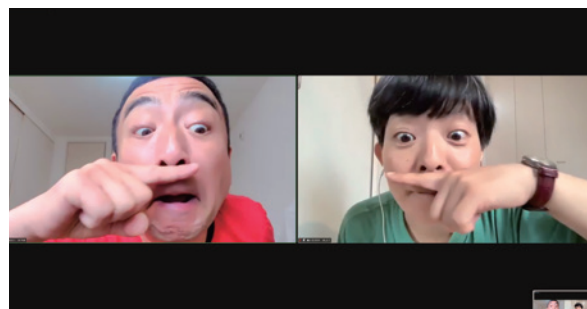
ジョン・ケージの名曲「4分33秒」を実践するワーク

わざわざ音楽家が音を奏でなくても世界は豊かな音に溢れているはずというコンセプトを実践。4分33秒の間に聞こえた音を各自が線や記号で表現し、後で発表。普段気にしていない小さな音に耳を向けることで、多様性や自分の内面への気づきが得られることも多い。



皆でいっせいに画面を森の色にするワーク

10秒間で、皆で画面を森の色にしようというワーク。それぞれが身近な緑色のものを調達しカメラにかざしたほか、ヴァーチャル背景を切り替える人も。答えは一つじゃないことを可視化する。100gや1mに近いものを持ち寄り、加減してぴったりにするなど発展可能。



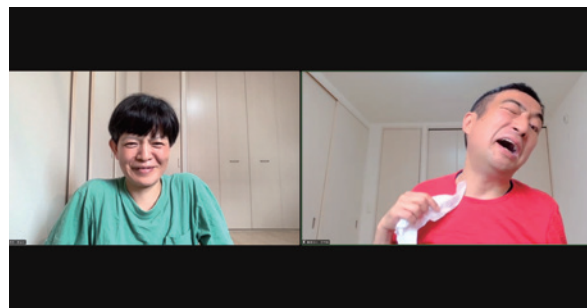
鏡ごっこ（ミラーリング）ワーク

1対1で相手の動きのマネをする。指先だけをアップにしたり、鼻の頭をもぞもぞしたり、画面から離れていったん消えて下から出てきたり画面ならではの動きを意識してみる。重度障害を持つ人の指先の動きを真似するなどバリアフリーな可能性も含んでいる。



森のダンスワーク

自分が好きな振舞いをしている、人のマネをしている、飽きたら何もせずボーっとしてもいい。外でそっと見守ったり、邪魔しなければ出たり入ったりしてもいい。必ずしも全員が盛り上がって参加しなくてもよいのだと、多様性を体感として感じることも大事。



皮膚感覚を想像力で受け渡すワーク

ティッシュで顔をなでるなどしてから画面越しに相手に渡し、相手もそれをやる。これを交互に行うことで相手を感じた皮膚感覚を疑似体験する。音と画像では味覚・嗅覚・触覚などは伝えられないが、想像力で補うことでコミュニケーションを深められるという試み。

- アイデアが面白い。
- ・先生の視点で他の参加者を見られるのはオンラインならではの。また、オンラインだとワークでも飲み会でも、1対1、グループ、1対全員など、つながり方が簡単に切り替えられる点が面白いと感じる。
 - ・2〜4人に振り分けられてのワークは、最初緊張するが、話し始めるとすぐにアイスブレイクする。やはり場の共有感か。
- 質疑応答
- ④ ワークをするときにあまりリアクションをしない方もいる。強制するのは良くないが、うまくリアクションを引き出す方法はあるか？
 - ⑤ 大切なのは場作り。「いいね」をなにかグッツで表現するとか、必ず帽子をかぶるドレスコードとか。『オンラインのあたいたかい場づくり 自主研究ノート』（NPO ハンズオン埼玉）も参考になる。
 - ⑥ 家族がいるところで今日のワークをやるのは恥ずかしいが。
 - ⑦ 学生が空き教室や屋外から参加することはある。バーチャル背景NGで、気になる背景を話題にやるのもいいかも。
 - ⑧ 不登校の子どもや言葉が通じない子どもたちへのワークやサポートは。
 - ⑨ 自分以外のサポートスタッフが必要。参加しないで見てるだけの子供がチャットだけ参加したケースもあり、チャット専用の応援者なども良い。ワークに参加するのは嫌だけど、技術スタッフやサポートとしての参加はOKという子もいる。